



LCC News Letter 2.

4 October 2010 LCC広報担当

同志社で学んだノーベル賞受賞者

人生初の挫折を味わったのは、1937年（昭和12年）の春のこと。府立一中とよばれていた京都府立京都第一中学校（現洛北高校）の入学試験に落ちてしまったのです。

合格間違いなしと思っていたのに、「黽」とよばれるほど細かった体が、健康優良児を求める軍国時代の身体検査に合わなかったのか。あるいは口頭試問で高音が不利に働いたのか。不合格には私自身も途方に暮れましたが、母の落胆は大変なものでした。

京都を離れて気分をよわ

科学と技術 江崎 玲於奈 ④

同志社 米文化に出会う

「この学校は、翌年の中学再受験を自指す私のような浪人組と、師範学校を自指す生徒がいました。浪人組には、裕福な家庭の子が多かったです。2年間通って師範に行くと、もう少し庶民的な感じがして、京大の面影を見てくれない海浜浴場の水泳も授業にありました。若い頃は、私主英会館クラブに入って

進んだ。高等小学校からの進学は、師範学校や実業学校に限られていた。この学校は、浪人組と、師範学校を自指す生徒がいました。浪人組には、裕福な家庭の子が多かったです。2年間通って師範に行くと、もう少し庶民的な感じがして、京大の面影を見てくれない海浜浴場の水泳も授業にありました。若い頃は、私主英会館クラブに入って

きさすれば、むしろ裾野が広がり、見識も深まると感じます。

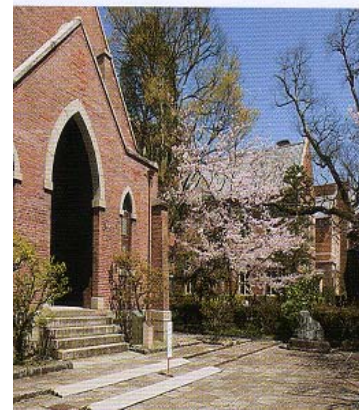
翌年は府立一中は受験せず、合格した京都の同志社中学に進学することになりました。この選択が、後の私に大きな影響を与えることになりました。

▲米アーモスト大学に学び、キリスト教人格主義教育を日本に広めようとした新島襄は1875年（明治8年）、同志社英学校を設立。江崎さんが入学したころには大学、専門学校、中学などがそろっていた。当時としては珍しく、アメリカ人が英語を教えていました。コラ・K・ウォレンという女性で、ご主人は同志社大学の教授です。

同志社中学3年、15歳の江崎さん

時代の証言者

得たことが、世界的視野で物事を考えていく下地になりました。



同志社大学 チャペル

江崎玲於奈と同志社

左記は、平成22年10月2日読売新聞朝刊「時代の証言者」コラムに1973年ノーベル物理学賞受賞の江崎玲於奈教授についての掲載記事です。（読売新聞科学部、滝田恭子執筆）

LCC9月例会の「新島塾」でも、「リベラル・アーツ教育」を取り上げました。江崎玲於奈も「感受性豊かな10代の入り口で新島スピリットを学び、同志社で異文化と接したために、世界的視野で物事を考える素地ができた。」と述懐しています。また、「京都一中より同志社中学を選択したことが、後の自分に大きな影響を与えた。」とも語っています。

（文責：北出 至）

（記事の続き）おり、クリスマスには構内にある先生のお宅に招かれました。アメリカ人の家庭を訪ねるのは初めてで、とても面白かったことを覚えています。ティーンエージャーと呼ばれる13歳から19歳までは、体だけではなく精神も著しく成長します。自我が目覚める年頃ですから、受験勉強に励むだけでは個性は育ちにくい。私はティーンの入りで、新島スピリットを学び、キリスト教色の濃いアメリカ文化に出会いました。感受性の豊かな時期に異文化と接する機会を